

1 1月9日、総務委員会全委員出席のもと意見交換会が行われました。

事前に、成瀬副委員長とは「①1団体30分の時間配分とすること、②団体間には10分間の休憩を取ることを、③交換会において結論を出すのではないこと」を確認し、この30分内において「①団体の自己紹介活動状況、②今回参加するにあたっての課題の趣旨説明、③要望事項、④委員からの確認質問事項、⑤意見交換」とする旨を参加各団体及び委員の方にも説明了承を得て、意見交換会を開始しました。

なお、参加予定であった『旭フォークダンス同好会』においては、前日に議長に不参加の旨の連絡があり、今回は中止としました。

以下、5団体・6テーマについて意見交換会での要旨を報告します。

1 木造住宅の耐震を考える会

(午前9時30分～午前10時10分)

代表 光成仁志 他3名

テーマ 木造住宅の耐震関連相談の実施・空家木造家屋の危険度調査の実施について

現況・課題

- ① 市民からの個別相談対応 市民→都市計画課建築住宅係→当会（4件程度）
- ② 町内会等での耐震関係の展示説明 渋川福祉センターにて定例会を実施
⇒全町内会を対象とした活動が役員の多忙によりできていない
- ③ 耐震診断評価の低い家屋の耐震改修の進捗状況（15年の経過）
⇒改修実行件数が少ない⇒耐震改修を行う判断資料の不足⇒補助金利用の費用化基準の難
度が高い（予算・工程に影響が出る）
- ④ 子供建築教室を出張開催
- ⑤ 防災訓練時での出展
- ★ 高齢単独世帯が多く、事前の部屋の片付け等工事に伴う対応に支障が出ている

要望・意見交換

- ① 定期的な集中的な個別相談の対応について
⇒市役所ロービー・公民館・集会室などで・・・・・・・・・・会としては対応可能
- ② 各地区での展示説明会の開催
⇒地区公民館などで・・・・・・・・・・会としては対応可能
- ③ 昭和56年以降の木造住宅耐震診断も市民の不安を取り除くために必要
- ④ 低予算での耐震補強の独自工法の開発
- ⑤ 空家木造家屋の危険度調査の実施

まとめ

災害に対する備えは、熊本の被災地を見るまでもなく「待ったなし」の状況である、自治会に『活き生き委員会』（仮称）の設置をし、モデル地区方式で他地区への波及を図ることも必要とされた。

2 介護健康村推進協議会

(午前 10 時 45 分～午前 11 時 20 分)

発言者 中西 敏憲 他 4 名

テーマ 今のままの『支え合うまちづくり』の施策を続けるだけで、私達が目指すまちづくりは実現するだろうか？介護保険改正に伴う総合事業への対応について

現況・課題

- ① 市は、市民団体や市民が相互に支え合って何をやるか、やっているかについての関心が薄い
- ② 市が自ら使命を果たすために、市民団体並びに市民に、支え合いを求めていく新たな発想が必要と考える。
- ③ 近隣市の状況も参考にし、総合事業実現のため市民団体、市民との連携のための新たなコンセプトの構築が必要と考える。

要望・意見交換

- ① 2015年介護保険改正・新法成立の主なポイントを相互に確認
⇒市町村への移行のため、財政状態、首長の意欲次第で格差の生ずる恐れがあるが、NPO・ボランティアの活用により多様なサービスが可能となる。
- ② 平成29年4月からの実施項目を相互に確認
- ③ 名古屋市の高齢者日常生活支援研修などへの取り組みの必要性について
- ④ 瀬戸市・長久手市と本市の市民活動促進助成金制度の一覧表を提示

まとめ

日野市が平成19年3月に作成した『市民活動団体(NPO)と市との協働のための指針』も参考資料として提示され、市民団体及び市民の新しい協働のあり方の必要性と、新しいコンセプトの構築が必要課題であるとされた。

3 介護健康村推進協議会

(午前 11 時 20 分～午前 11 時 55 分)

代表 藤田 寿昭 他 4 名

テーマ 本会の活動の背景や目標を理解して頂くと共に、精力的なご指導ご鞭撻をお願いしたい。

現況・課題

- ① 介護する人が『育児』+『家事』+『仕事』+『介護』の4ステージを一人で背負う時代へと進んでいる
- ② 一人の限界を超える部分には、隣り近所が助け合う、古の伝統的な町人文化を基盤とした地域社会の構築が必要
- ③ 本会は平子地区の市有地の有効的に活用した、介護健康村の実現に向けている
- ④ 「行政特区」となって地域に密着した持続可能な「介護健康村」の実現に向け、10年先を見据え一步一步大切に積み上げていきたい。

要望・意見交換

- ① 常任委員会には、特に賛同市民の拡充、広報、宣伝の一役となってもらいご指導を頂きたい。
- ② 「介護健康村構想概要書」を市長に提出した、これを総合戦略に取り込みたい。

③ 労災病院の協議も今後さらに必要となる。

まとめ

同一団体からの参加のため、テーマごとに時間配分を行ったが、参加の車の賛同を得、休憩なしの交換会として、意見の発言を求めました。

【南医療生協】【シェア金沢】などの現地調査も行われ構想概略書は作成され、ホームページも開設されています。さらには『絆』『自助』『希望』『感動』をコンセプトとしたバージョンアップを図って行くことされた。

4 尾張旭市体育協会

(午後 1 時 30 分～午後 2 時)

代表 吉田 与十六

テーマ 2026 年（平成 38 年）アジア競技大会開催地が愛知県・名古屋市共同で決定しました。尾張旭市は、1995 年（平成 7 年）国民体育大会愛知で森林公園会場にて馬術競技を行った実績があります。アジア大会の馬術競技場会場に県・名古屋市に働きかけ、平子町北地内市有地に練習場・厩舎を作り、大会終了後の市民全体での活用方法について知恵をだし合う。

現況・課題

- ① 本市の体育協会には馬術部門は 10 数年前に解散している。
- ② プレ・アジア大会もあると予測できるので、市としての早期プランニング作成が必要
- ③ 県の対応を早急に研究確認すること

要望・意見交換

⇒屋内体育館の新設を強く要望された。（空調・シャワールームなどの完備）

まとめ

平子北地内市有地の有効活用は本会においても大いに関心のある所であり、基本構想案の提示を早くしてもらい、体協のあり方を検討していくことで相互確認した。

5 おわり和文化倶楽部

(午後 2 時 10 分～午後 2 時 40 分)

代表 柳生利恵子

テーマ 市文化会館の設備利用における利用目的により利用料金を決定することについて

現況・課題

- ① 尾張旭市文化会館及びあさひのホール利用料金が非営利市民団体が利用する際においても、入場料が 1 千円以上となる場合、営利目的とされ 3 倍になる件について
- ② 名義使用許可申請について、入場料等が発生すると市の後援ではなく推薦しかもらえない件について
- ③ ①、②共に団体の実体や内容を精査することなく、料金、有料＝営利という間違っただ時代錯誤的判断基準である。

要望・意見交換

- ① 市民活動支援センター活用登録証があるにも拘らず、活動が一方的に営利と判断することなく、公演内要を吟味検討材料としてもらいたい。

まとめ

より市民の文化活動がしやすい環境にするための条例の改正も視野に入れるべきとしました。

6 尾張旭防災リーダー会

(午後2時50分～午後3時20分)

会長 加藤英史 他3名

テーマ 家具転倒防止への積極的取り組みについて

現況・課題

- ① 現在常時10名程度が活動をしている。
- ② 家具転倒防止の講演・実技指導を年7回280名(H24～27年平均)開催
- ③ HUG訓練指導 AED指導なども積極的に取り組んでいる。

要望・意見交換

- ① 家具転倒防止活動を開始以来7年は経過し、市とは相互に積極的協力をしている。
⇒市全域で何軒で家具固定がされているかの調査を
⇒今後の実施目標(年度目標)を
- ② 家具転倒防止が出来るシルバー人材センター要員の確保
- ③ 地域住民に応えられるアドバイザー(個人・組織)の創生
- ④ 家具転倒防止資材の持ち出しのための公用車の利用をさせてほしい。
- ⑤ 他事業への活用・連携の必要性がある

まとめ

本会は県・他市そして本市との協働を積極的に行っており、活動しやすい環境作りが会員の新規育成にもつながるものとする。

細やかな、要望事項の実現に向け今後も進んでいきたい。

★なお、当日『誰でもできる 家具転倒防止』のDVDを行う予定であったが、機材不調のため取りやめた。

以上